

教会学校 教案ガイド

教師メモやメッセージアウトラインを読む前に必ずディボーションをしましょう。

1. みことば

祈りながら今週のテキスト(聖書箇所)を何度も繰り返し読んでください。また、今週の暗唱聖句を決定して、覚えましょう。

2. 主題の読み取り

今週のみことばの中心テーマを自分のコトバで、1つの文章にまとめて書きあらわしましょう。

例 ○: イエスさまは、弟子たちがイエスさまを救い主と信じるようにカナで奇跡を行いました。(×: カナの婚礼と奇跡)

3. 教えられたこと

今週のみことばを通して、神さまがあなたに語ってくださったことを書きあらわしましょう。

4. メッセージの作成

◇「教師ノート」と「メッセージアウトライン」を参考にしてください。

◇注意深く聖霊さまの導きに従いましょう。

教会教育部公式サイト <http://jag-ce.sakura.ne.jp/>

教会の働きのためにご自由にお使いください。営利目的での使用は禁じます。すべての内容の著作権は、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団教会教育部にあります。

教師ノート

日付 2022年 9月 4日

単元 使徒の働き・2

テーマ 伝道と神の助け

タイトル 牢をやぶるチカラ

テキスト 使徒 16:16-40

参照箇所 使徒 16:1-15

暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)

使徒 16:31

AG 日曜学校教案参照箇所

小上 3 巻 1 題 7 課、小下 2 巻 4 題 6 課、幼 1 巻 3 題 12 課、中 3 巻 1 題 7 課

メモ(情報・例話など)

前回のテキストから今回のテキストまでの間には重要な記事がいくつもあります。アンテオケ教会の設立、ヘロデ王によるヤコブ殺害、ペテロの逮捕、パウロの第一次伝道旅行、エルサレム会議などです。今回のテキストを効果的に語るために、メッセンジャーはこれらの箇所を必ず読みましょう。また、パウロの2度の伝道旅行の行程を地図で確認しましょう。パウロの献身、聖霊の働き、福音の広がる勢いに感動が得られるはずです。

□導入

興味を起す質問をしましょう。

例:もし何かの間違いで刑務所に入れられてしまったら、どうしますか?きっと、「悪いことはしていません」と牢から出られるように、必死で訴えるのではないのでしょうか。または、「一生ここから出られなかったらどうしよう」と否定的なことばかり考えてしまうのではないのでしょうか。今日は、イエスさまを伝えたために、牢に入れられてしまったパウロとシラスのお話をします。彼らは、牢の中で、どんな気持ちでいたのでしょうか?何をしたのでしょうか?

□ポイント1 パウロとシラスは、ピリピで牢屋に入れられてしまいました(16-24節)

パウロの一行は、2度目の伝道旅行をしていました。聖霊に導かれて、彼らはマケドニヤ地方第一の都市ピリピに行き、そこにしばらく滞在して伝道をしました(6-12節)。パウロは新しい町に行くと、ユダヤ人の会堂に入って伝道するのが通常でした。しかし、ピリピには会堂がなかったので、川岸の「祈り場」へ、毎日通って伝道していました。ユダヤ人たちは、そこで礼拝していたのです。

☞ 占いの霊につかれた女奴隷が言いました。「この人たちは、いと高き神のしもべたちで、救いの道をあなたがたに宣べ伝えている人たちです。」。これは正しいことではないのか?と質問する子どもがいるかもしれませぬ。しかし、「いと高き神」とか「救いの道」という語は、異教でも使われていた表現です。彼女は、必ずしも本当の神に関することを証しているわけではありません。むしろ、悪霊のねらいは、そのように人々を混乱させることです。女は「悪霊から助けてください」と言っていますが、あまりにも続けて伝道の妨げをするので、パウロが悪霊を追い出しました。イエスの御名の圧倒的な勝利でした。その女の主人たちは、彼女の占いで儲けることができなくなったので、怒ってパウロとシラスを役人に訴えました。きちんとした裁判が行なわれないまま、彼らはムチで何度も打たれ、牢に入れられました。

☆一緒に考えよう。ムチで何度も打たれ、体と心の状態はどうなっていたらろう?また、不当な裁判で、牢に入れられたパウロとシラスの気持ちはどうだったらろう?

□ポイント2 パウロとシラスが賛美をしていると、大地震が起こって牢の扉が開きました(25-26節)

当時の牢は、現代からは想像もできないくらい、汚く、暗く、恐ろしい場所だったでしょう。不当な仕打ちを受け、嚴重な警備と足かせのため脱出の希望も奪われ、普通ならひどく落胆するはずですが、しかしパウロとシラスは牢の中で、祈りつつ賛美の歌を歌っていました。他の囚人も聞き入っていたほどですから、ヤケクソではなく、真心からの美しい賛美だったと想像できます。

パウロとシラスの信仰にこたえて、神は大地震を起して、牢の扉を開き、鎖を解いて、彼らを助けだしていただきました。他の囚人たちがなぜ逃げなかったかは明記されていませんが、おそらく、起った出来事に対して、神を畏れる心が働いたのでしょう。

☆一緒に考えよう。苦しい時でも賛美するのがクリスチャンのあるべき姿だと言ってしまうのは簡単です。しかし、もし自分がこの状況下にいたら、彼らと同じような行動ができると思いますか？

☞子どもたちが現代の刑務所の牢を思い浮かべてしまうと、地震で扉が開いたり、鎖がはずれたりした内容にリアリティがなくなります。当時は岩を積んで作った獄舎であり、扉はおそらく木の開き戸で、棒を渡してロックするものでした。鎖は壁の岩や丸太につながっていたでしょう。

□ポイント3 看守とその家族がイエスさまを信じて救われ、パウロたちは釈放されました(27-40節)

看守は、囚人を逃がしてしまった責任を感じて自殺しようとしたが、パウロがそれをとめました。看守が、「先生がた。救われるためには、何をしなければなりませんか。」と尋ねると、パウロとシラスは、「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」と応えました。看守とその家族は救われました。翌日、パウロとシラスは釈放されました。パウロは、その時はじめて、自分たちが不当な扱いを受けたことを抗議しました。

☞看守が、「救われるためには、何をしなければなりませんか」と言った理由は明確にはわかりません。おそらく、パウロたちが(捕らえられる前に)、福音をのべ伝え、占いの女奴隷から悪霊を追い出したことなどを知っていたのでしょう。また、何が起ったのか困惑している時に、パウロたちなら、何か答えを知っているのではないかと直感したのでしょう。

□結論 神さまは、パウロとシラスが牢屋の中で賛美したとき、不思議な力で助けてくださり、福音を広げる働きを進めてくださいました。

占いの女のことから始まって、予定とは違うトラブルが起っているように見えます。しかし、神はそれを益として、看守とその家族を救ってくださいました。苦しい状況にあっても、それを否定的にとらえるのではなく、神を信頼し賛美するとき、神はその栄光をあらわしてくださるのです。

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1) 困難があっても、神さまを信頼し、賛美するとき、神さまは必ず助けてくださいます。みんなは牢屋に入ったことはないけど苦しいことはあるよね。今あなたにとって、ムチ打たれたように傷ついていることは何ですか？牢に入れられ抜け出すことができないような苦しい状況はどんなことですか？牢屋の中で、普通の人は、希望を見失ってしまい、否定的なことばかり考えます。しかし、どんなときも、(むしろ苦しい時こそ)まずイエスさまを見上げて祈り賛美できる人になろう！神さまの愛を信じよう！

例2) 特に、私たちが熱心に福音を伝えようとするとき、神さまご自身が、その働きを不思議な力で押し進めてくださいます。あなたがお友だちを教会に誘うとき、どんな困難がありますか？伝道するのを、あきらめなくなる時もあるよね。それでも、神さまに祈り、賛美するのだけは、やめないでね。そうすれば、イエスさまがすばらしいことをしてくださいます。道を開いてくださることを信じ続けましょう。

例3) まだイエスさまを信じていないお友だちは、イエスさまを信じよう。そうすればあなたの家族も救われます。救われるためにどうしたらいいの？救われるってどういうこと？…など知りたいと思ったら、教会の先生に聞いてみよう。

教 師 ノ ー ト

日付	2022年 9月11日
単元	使徒の働き・2
テーマ	伝道する
タイトル	語り続けよ～第2回伝道旅行
テキスト	使徒 18:1-11
参照箇所	Ⅱ テモテ 4:2
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	使徒 18:9
AG 日曜学校教案参照箇所	幼 1 巻 2 題 13 課、小上 3 巻 1 題 9 課
メモ(情報・例話など) ☆主がパウロを用いられたように、私たち(子どもたち)を用いられます！	
□導入 イエス様のことを伝えるのに、「恥ずかしいなあ」と思ったり、勇気がでなかったりするかもしれません。恐れていない人に、「恐れるな」とは言いませんね。恐れているから「恐れるな」と言われます。じつは…、あの大伝道者パウロが「恐れるな！」って神様から言われたのです。パウロもイエス様のことを伝えるのに、恐れる時があったようですね。	
□ポイント1 パウロは、コリントで宣教の助け手が与えられました(1-5) パウロは第2回目の伝道旅行でギリシヤのコリントという街にやってきました。するとイタリアからやってきたアクラとプリスキラというクリスチャンの夫婦がいました。この夫婦はパウロと同じ天幕作りをしていたので、パウロは彼らの家に住んで一緒に仕事をしました。神さまはパウロのために住む家も助け手も備えて下さっていました。平日は仕事をし、安息日にはイエス様のことを宣べ伝えていました。すると今度は、来るように言っていたシラスとテモテ(17:15)がコリントの街にやってきました。そこでパウロは、イエスさまのことを宣べ伝えることに専念することができるようになり、イエスさまがキリストであることを多くの人々にはっきりと宣言していきました。	
☆イエスさまのことを宣べ伝える時、神さまは助け手を与えられます。牧師や宣教師が皆さんの街で宣教が開始された時、アクラとプリスキラのような夫婦、シラスやテモテのような助け手がきっと与えられていたと思います。教会の歴史を牧師などに尋ねて、子どもたちに最初の様子をお話すると良いでしょう。	
□ポイント2 パウロの宣教に反対する人もいましたが、多くのコリント人がイエスさまを信じました(6-8) パウロはユダヤ人にイエスさまがキリストであることを宣言しましたが、ユダヤ人はパウロに反抗して暴言をはきました。そこでパウロは異邦人に伝道を始めました。するとクリスポという人とその家族のみんながイエスさまを信じました！そしてたくさんのコリント人がイエスさまのことを信じ、次々と洗礼を受けたのです。	
☆イエスさまのことを語ると、反対する人、悪く言う人が出てくるかもしれません。それはイエスさまの時代からそうでした。だから私たちは反対する人がいても驚く必要はありません。反対する人がいても、イエスさまのことを信じる人々も神さまは備えて下さっています！	

□ポイント3 パウロは、主に励まされながら神のことばを語り続けました(9-11)

ある夜、主は幻の中でパウロを励ましたのです。偉大な伝道者パウロも、多くの人々の反対、暴言などに恐れを感じていたのでしょう。主はパウロに「恐れなくて語り続けなさい。この町にはわたしの民がたくさんいる」と言われました。主に励まされたパウロは、1年半腰を据えて神のことばを語り続けました。やがてパウロは「コリント人への手紙」を記しているように、パウロが主に励まされて神のことばを語り続けたので、汚れた街と言われたコリントの街にキリストの教会が誕生していくことになります。

☞パウロは伝道旅行の際に多くの苦しみの中を通りました(Ⅱ コリント11:21-33)。「眠られぬ夜」を過ごしたこともあったようです。コリントにおいてもそういう夜を過ごしている時に、幻の中で主の励ましが与えられたのかもしれませんが。

☆ある牧師は「聖書の中に『恐れるな』という言葉が365回あります。つまり私たちは毎日毎日、主の励ましの言葉を聞きながら生きていく必要があるのです」と言っていました。批判や否定の言葉が耳に入ってくるかもしれませんが、私たちが心に留めておく言葉は主の励ましの言葉なのでしょう。

☆神さまは、コリントの人たちがまだイエスさまのことを信じていないのに、「わたしの民」と呼んでいます。私たちの住んでいる街にも、神の民が大勢います。クラスの中で1人だけのクリスチャンという子どもいでしょう。主がパウロを励ましたように、主と同じ心で子どもたちを励ましてあげましょう。

□結論 恐れなくて、主に励まされてイエス様のことを語り続けましょう。 暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

恐れなくて語り続けるために、

- 1)パウロにも助け手が与えられたように、お互いに名前をあげて、家族や友達がイエス様を信じるように一緒に教会に誘ったり祈りましょう。
- 2)もしかするとイエス様のことを「信じない」って反対する人がいるかもしれませんが、信じる人も必ずいることを私たちがまず信じましょう。
- 3)今住んでいる町や市には、神様の民が大勢います。どのように伝道したら良いかみんなで考えてみよう。

教師ノート

日付	2022年 9月18日
単元	使徒の働き・2
テーマ	伝道と神の助け
タイトル	エペソでの伝道
テキスト	使徒 19:1-41
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) 使徒 19:20
AG 日曜学校教案参照箇所	
□導入	興味を起す質問をしましょう
	例:おともだちにイエスさまの話をして笑われるのは、悲しいですね。パウロはどうだったのでしょうか? パウロは、船と徒歩で外国に出て行って、どの町でも福音を伝えました。今日は、3回目の伝道旅行で行ったエペソという町で起こったことを見ていきます。
□ポイント1 パウロは力強くエペソで伝道をしました(1-20節)	ここでは、騒動が起こる以前のエペソ伝道のようすを簡潔に伝えます。福音が驚くほど広がり、勢いを増していくようすをダイナミックに語りましょう。
	1)バプテスマのヨハネのミニストリーによって、悔い改めたユダヤ人が、教会に集っていました。彼らはクリスチャンでしたが、イエスを信じる信仰の面で不明瞭な点があったので、パウロはそれを補強しました。彼らはイエスの名による洗礼を受けました。パウロが手を置くと、彼らは聖霊のバプテスマを受け、そのしるしとして異言を語りました。
	2)パウロはエペソに約2年間滞在して伝道しました。初めユダヤ人の会堂で教えました。反対にあい、ツラノの講堂(ツラノは人物名、講堂は人々が集まって講義をきく場)で語り続けました。2年間毎日語ったので、ユダヤ人もギリシャ人も福音を聞きました。
	3)神は、パウロを通して奇蹟をあらわされました。パウロの身につけているもので、病が癒され、悪霊が追い出されました。ある魔よけ祈祷師の失敗で、パウロが伝えている神こそが本物だということが証明されました。それらを通して、エペソ全体に恐れが生じ、信仰と悔い改めが起こってきました。魔術を行っていた人たちも、高価な書物を大量に焼き捨てるほど、明確に悔い改めました。例えば、現代の日本で、テレビに出ている占い師が、「イエスさまを信じたので、この番組は終わりです」と言うくらいの影響を与えたと想像するとよいかもしれません。聖霊は、パウロの伝道をそれほど力強く助けられたのです。
□ポイント2 銀細工人デメテリオが伝道に反対して騒動を起しました(23-28節)	銀細工人デメテリオの商売が困難になったということは、それだけパウロの伝道が、このエペソで強い影響をもたらしたこと(伝道の成功)を意味しています。パウロが「手で作った物など神ではない」と言って、イエスを宣べ伝え、信じる人が増えたので、エペソの伝統的な女神アルテミスの神殿の模型が、売れなくなって困っているというのです。神殿を参拝する人や見に来た人に、神殿を模った銀細工(大きく豪華なものから、小さいものまで)を売っていたのでしょう。デメテリオは、自分たちの商売がダメにならないように、同業

者などを集め、必死で扇動しました。

□ポイント3 町中がたいへんな騒ぎになりましたが、神さまは助けを備えてくださいました(29-41節)

銀細工の職人たちは怒り、叫び声を上げて抗議し始めました。しかし、彼らのデモ行動は、当事者だけでなく、町中の人々を巻き込む大騒ぎへと発展していきました。そして、パウロの同行者であるマケドニア人ガイオとアリストアルコを捕え、一団となって劇場へなだれ込みました。パウロはそれを知って、集団の中に入ろうとしましたが、弟子たちに止められました。アジア州の高官たちも、パウロに友好的だったようで、彼に劇場に入らないように伝えました。集会は大混乱で、大多数の者はなぜ集まったかわからないという状態でした。こうなると、事態を收拾することは、不可能でした。

町の書記役が、群集を治めるために登場します。彼はきっぱりと、パウロたちは訴えられるような罪は何もしていない、と言いました。もし必要なら正当な手段で訴えるべきであり、むしろ、今彼らがやっていること自体が公的に有罪となると指摘しました。町の書記役は、エペソでは最も有力な職務だったと考えられています。ですから、そこに駐在するローマの地方総督とも近い関係にあったはずですが、その立場から発せられる、賢明な論理には、非常な説得力がありました。

☞「劇場」は、ギリシヤ都市の公共施設。エペソの劇場は、現存する古代劇場の最大のもので、2万5千人を収容できる野外劇場。演劇だけでなく、政治的集会や交わりの場にもなっていました(いのちのことば社・聖書の達人「新聖書辞典」より、同・写真も参照)。

☞33-34節でユダヤ人が問題になっています。これは、集会在混乱していたため、反パウロ運動が、いつの間にか反ユダヤ人運動となったためです。ユダヤ人はアレキサンデルに代表で弁明させようとしたが、事態は混乱を極めるばかりでした。

暗唱聖句を読み上げます

□結論 パウロは宣教活動の中で、たくさんの困難にあいましたが、神さまに守られて、福音は力強く広がっていききました

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

町の役人が助けてくれるとは思ってもよらないことですが、確かにこの混乱を抑える知恵と力をもつのは町の役人だけだったのです。これは、神の助けです。

例1)パウロの宣教は、たいへん勇ましく激しいものでしたので、迫害や困難もたくさん受けました。しかし、だからこそ、神さまのすばらしいみわざを表したり、不思議な力で守られたりすることもたくさん体験することができたのです。(他の宗教に対して批判的・敵対的になる必要はありませんが、)あなたも、恐れないうで、愛をもって、みことばを伝える人になりましょう。困難があるかもしれませんが、それによって、神さまのみわざがあらわされ、神さまが必ず守ってくださることを信じよう!

例2)あなたは、エペソで起こったような世間を揺るがすリバイバルが、あなたの住んでいる地域でも、実際に起こるということを、心から信じていますか?日本では伝道したってどうせ「みことばが驚くほど広まり、ますます力強くなって…」なんてありっこないと、あきらめていませんか? エペソで働かれた聖霊さまが、今あなたの町で働かれます。パウロを助けてくださった聖霊さまが、同様にあなたを助けてくださいます。信仰の枠を大きく広げて、地域のために祈ろう! イエスさまは、みんなを命がけで愛しています。みんなにイエスさまが必要なのです。

教師ノート

日付	2022年 9月25日
単元	使徒の働き・2
テーマ	使命を全うする
タイトル	ローマにたどり着くパウロ
テキスト	使徒 27 章、28 章
参照箇所	使徒 21-26 章
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) II テモテ 4:7	
AG 日曜学校教案参照箇所 小上 3 巻 1 題 11 課、小上 3 巻 1 題 12 課、小下 2 巻 4 題 9 課、小下 2 巻 4 題 10 課、 小下 2 巻 4 題 11 課、中 3 巻 1 題 11 課、中 3 巻 1 題 12 課、中 3 巻 1 題 13 課、幼 1 巻 3 題 13 課	
□導入 興味を起す質問をしましょう	
例:あなたは何かをしようとして(毎日日記を書こう、毎朝ジョギングをしようなど)途中であきらめたり、イヤになってやめたりしたことはありませんか?	
□ポイント1 パウロは囚人としてローマへ行くことになりました(21-26章の簡潔な説明) ローマはパウロの働きのゴールです。もちろん福音のゴールは地の果てまでであり、すべての民に届くべきものですが、パウロにとっては、目標地点でありました。それは、聖霊の導きによって、彼の内に立てられた計画でした(19:21、23:11)。	
☞メッセンジャーは21-26章を調べて、パウロが囚人としてローマに行くことになった経緯として、説明すべきポイントをおさえましょう。また分かりやすく、簡潔に語れるように、祈って工夫しましょう。以下は教師の理解のための要約です。 パウロはエルサレムでアジヤから来たユダヤ人の群集に捕らえられました。群衆は、自分たちの故郷(エベソ)で、パウロが勢いよく福音宣教をしたので(ユダヤ主義を否定されて)彼に反感を持っていました。彼らは、パウロが、神殿の内庭に入ることを禁止されているはずの異邦人を、連れて入ったと勘違いをして、 <u>何の罪も犯していないパウロを死刑にしようとして</u> しました(21:21-30)。そこへ千人隊長が駆けつけ、パウロの命は守られました(21:31-22:24)。さらに、神は、パウロを彼のローマの市民権によって守られました(22:25-30)。ローマ市民には、色々な特権が保障されていました。そのひとつとして、ローマ市民にムチ打ちの拷問を与えることは、禁じられていました。神は、その計画の中で、パウロの先祖に、価値あるローマの市民権を与えられたのでしょう。それでもユダヤ人たちは、パウロを罠にかけて殺す計画を企てました。しかし神は、この陰謀からも、彼を守られました(23:12-35)。パウロは、全くの無罪でしたが、エルサレムで裁判を受けると、ユダヤ人によって不正に裁かれてしまう可能性がありました。ローマ市民権を使って、ローマで裁判を受ければ、その心配はありません。しかも、必然的に、神の計画の目標地点であるローマへ行くことができます。パウロは、ローマで裁判を受けることを選びました。ついにパウロは囚人としてローマへ行くことになりました。	
□ポイント2 ローマへの航海はたいへん困難でしたが、神さまが守ってくださいました(27:1-28:13) パウロの乗った船は暴風に見舞われました。船体を守りながら、風に任せるのが精一杯で、何日も不安な日が続きました。そんな中、パウロは、元気を出しなさい、必ずどこかの島に打ち上げられると言って皆を励ました。ついに船は暗礁に乗り上げ、動けなくなったとき、兵士たちは、パウロを含む囚人たちを殺	

そうとしました。囚人を逃してしまうと、自分たちが罰せられるからです。しかし百人隊長は、パウロを助けることに決めていたので、他の囚人も皆守られました。こうして、神がパウロを守られたので、全員が座礁した船から脱出して、マルタ島に上陸しました。そこでまむしがパウロに噛みつきましたが、何の害も受けませんでした。人々はパウロを、「この人は神さまだ」と畏れるようになりました。また、パウロは島の首長の父親の熱病と下痢をいやしました。

☞ メッセンジャーは、まず地図でパウロの航路を確認しましょう。聖書を読んで、パウロの壮絶な航海のようすと、パウロの信仰を理解しましょう。子どもたちを聖書の世界に引き込めるように、臨場感をもって語りましょう。

□ポイント3 パウロはついにローマに到着し、みことばを宣べ伝え続けました(28:14-31)

パウロはついにローマに到着しました。ローマでは番兵付きではあるものの、自分だけの家に住むことが許されました。3日後、パウロはローマにいるユダヤ人に、囚人としてローマに来た経緯を弁証することから始めました。2度目には、もっと多くのユダヤ人がパウロのところに集まり、彼は朝から晩まで神の国のことを証し、聖書をとおしてキリストを語りました。パウロは軟禁状態のまま2年を過しました。この間に「獄中書簡」と呼ばれる4つの手紙を書き送ったと考えられます(エペソ・ピリピ・コロサイ・ピレモン)。パウロは、たずねて来る人たちをみな迎え、大胆に、少しも妨げられることなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教えました。

☞ 子どもたちは、「この後、パウロの裁判はどうなったの?」「パウロは何歳まで生きたの?」などに興味を持って質問するかもしれません。それに答える資料はありません。「使徒の働き」の記された目的は、聖霊の力によって、使徒たちを通して福音が広がっていくようすを伝えること(1:8)であり、パウロの一生を描くことではありません。聖書は、人ではなく、神のなさることに注目すべきことを教えているのです。

暗唱聖句を読み上げます

□結論 パウロは、ローマで宣教する使命をあきらめないでチャレンジしつづけたので、神さまはパウロを守り、それを成し遂げてくださいました

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1)パウロは最後まであきらめないで福音を伝え続け、神さまは、パウロを守り祝福してくださいました。あなたも、最後まであきらめないで、家族やお友だちが救われるように祈り、愛し、伝道しつづけましょう。お友だちを1回だけ教会に誘って断られ、あきらめてしまったということはありませんか?「あの人に伝道しよう」と決心したのに、いつの間にか忘れてしまっているということはありませんか?断られても、あきらめないで、祈ることは続けましょう。パウロは、神さまが必ずローマに行かせてくださると信じ続けました。

例2)あなたは、神さまへの願いごとをあきらめてしまい、祈るのをやめてしまっていないですか?神さまが必ずかなえてくださると、信じ続けることができているですか?あきらめないで求め続ければ、神さまは必ず祝福してくださいます。パウロが囚人としてローマに行ったように、自分では思いもよらなかった方法で、あなたの願いをかなえてくださるかもしれません。期待しよう!

例3)あなたも神さまからの使命をいただきましょう!そしてそれを最後までやり通しましょう!神さまはあなたに何をしたいと願っておられるのでしょうか?伝道だけでなく、家のお手伝いや、誰かを助けることかもしれません。学校の勉強かもしれません。使命を知ることがプレッシャーに感じるかもしれませんが、心配することはありません。最後まであなたを守り、祝福し、その使命を達成させてくださるのは、神さまご自身です。